



プレスリリース

令和6年11月25日
国立研究開発法人水産研究・教育機構

クエと似たミナミクエに学名を与え新種として公表

ポイント

- ・ハタ類のクエは高値で取引される高級魚です。よく似たミナミクエは南シナ海に分布する重要種です。
- ・クエとミナミクエが同じ学名で呼ばれる混乱がありました。調査の結果、*Epinephelus bruneus* (エピネフェルス・ブルネウス) はクエに当てはまり、今回、ミナミクエには新しい学名 *Epinephelus randalli* (エピネフェルス・ランドールアイ) を与えました。
- ・2種の学名が確定したことで、科学の知見に基づく資源管理・養殖技術の開発などに貢献し、異なる種の魚が混用される問題を未然に防ぐことに貢献します。

概要

水産研究・教育機構、神奈川県立生命の星・地球博物館及び、ベトナム科学技術アカデミー (Vietnam Academy of Science and Technology) は、高級魚として高値で取引されているハタ科魚類のクエ (図1a) とよく似ているミナミクエ (図1b) (注1) を新種 *Epinephelus randalli* (エピネフェルス・ランドールアイ) として公表しました。

日本では、クエは学名で *Epinephelus bruneus* (エピネフェルス・ブルネウス) と呼ばれてきました。一方、中国などではクエとよく似た別種 (=ミナミクエ: 本研究で与えた新和名) が同じ学名で呼ばれていました。

学名とは国際的に正式な共通名で、生物学では学名によって種を特定します。そのため違う種が同じ学名で呼ばれると、資源管理や養殖技術も混乱が生じます。そこで詳しく調べたところ、エピネフェルス・ブルネウスはクエを指す学名であること、ミナミクエにはまだ学名がないことがわかり、後者に学名を与えて新種として報告しました。分類学での新種とは、学名が新たに公表された種のことで、必ずしもそれまで未知の生物であったとは限りません。

この2種の学名が確定したことは、科学の知見に基づく資源管理・養殖技術の開発などに貢献します。また、本研究の成果を広めることで関係者の注意を促し、異なる種の魚が混用される問題を未然に防ぐことに貢献します。

この研究成果は、2024年11月25日に、Species Diversity (DOI :

10.12782/specdiv.29.389, URL :

https://www.jstage.jst.go.jp/article/specdiv/29/2/29_SD24-04/_article/-char/en) にオンライン掲載されました。

論文名 : Taxonomic status of the commercially important grouper, *Epinephelus bruneus* and *E. moara* (Osteichthys: Perciformes: Epinephelidae), with the redescription of *E. bruneus* and the description of a new species.

著 者 : Hoshino, Kouichi; Senou, Hiroshi; Nguyen, Van Quan

本件照会先 : 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 研究戦略部 標本管理室
星野 浩一 e-mail:hoshino_koichi44@fra.go.jp TEL: 095-860-1611 (2109)

問い合わせ先

(研究担当者)

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 研究戦略部 標本管理室 星野 浩一
e-mail:hoshino_koichi44@fra.go.jp TEL: 095-860-1611 (2109)

神奈川県立生命の星・地球博物館 和田 英敏 (瀬能 宏 代理)

e-mail:wada.kpm-ni@nh.kanagawa-museum.jp

(広報担当者)

国立研究開発法人 水産研究・教育機構 本部経営企画部 広報課

TEL: 045-277-0136 FAX: 045-277-0015 E-mail: fra-pr@fra.go.jp

研究の背景

ハタ科魚類のクエは日本・中国東シナ海沿岸などに分布し、西日本を中心に鍋物料理などの食材に用いられる高級魚です。クエは資源管理対象種で、稚魚の放流も行われています。一方、ミナミクエは南シナ海沿岸の中国からベトナムにかけて分布し、これも海鮮中華料理の食材として高値で取引されることから、漁獲量が増えた影響で資源量が大きく減少していると考えられます。

日本では、クエはエピネフェルス・ブルネウスの学名で呼ばれてきました。しかし中国などでは、ミナミクエが同じ学名で呼ばれてきました。学名とは国際的に正式な共通名で、生物学では学名によって種を特定します。そこで詳しく調べたところ、ミナミクエにはまだ学名がないことが判明しました。違う種が同じ学名で呼ばれると、資源管理や養殖技術などの研究にも混乱が生じる可能性があります。

研究の内容

まずは、エピネフェルス・ブルネウスの学名がクエとミナミクエのどちらを示すのかははっきりさせる必要がありました。学名にはその基準となる標本（担名タイプ）が存在します。学名は担名タイプに固定され、それと同一種の全個体に及ぶことが、動物の学名を管理する国際ルール（国際動物命名規約）で定められています。エピネフェルス・ブルネウスの担名タイプは、1793年にドイツのブロッホ(Bloch)がこの学名を命名した時に使用した研究標本で、現在ベルリン自然史博物館(Museum für Naturkunde Berlin)に所蔵されています。230年以上前の標本で、色や模様はほとんど失われていましたが、同館所蔵の担名タイプのスケッチには特徴的な縞模様が描かれていました。担名タイプ(図2a)とそのスケッチ(図2b)からは、図1で確認できるクエの特徴①エラブタ前部の骨(前鰓蓋骨)の角にあるトゲ(小さく数が多い; ミナミクエでは大きく数が少ない)、②2本目の縞の向き(水平; ミナミクエでは斜め)、③3本目の縞に枝がある(ミナミクエにはない)ことが確認され(注2)、この学名はミナミクエではなくクエを示すことが確定しました。

次に、過去においてミナミクエに学名を与えた文献がないか図書館やインターネットで探索しましたが、見当たりませんでした。実はミナミクエは過去の文献でもたびたび報告されていたのですが、誤ったままエピネフェルス・ブルネウス等の学名で呼ばれていました。魚そのものは古くから知られていたものの、学名のない魚だったのです。

今回の研究では、ミナミクエに新たな学名であるエピネフェルス・ランドールアイを与え、新種として論文に公表しました。

クエは中国では、*Epinephelus moara* (エピネフェルス・モアラ)の学名で呼ばれてきました。これは、幕末の長崎で採集された標本に基づき、オランダのテミンク(Temminck)とシュレーゲル(Schlegel)が1843年に与えた学名です。オランダ生物多様性センター(Naturalis Biodiversity Center, Netherlands)から提供頂いたエピネフェルス・モアラの担名タイプとスケッチの画像を調べたところ、クエの特徴が確認できました。クエに2つの異なる学名が付いていたことが本研究で確認されました。この場合、先(1793年)に命名されたエピネフェルス・ブルネウスが有効となり、エピネフェルス・モアラは無効とみなされます(このことは国際動物命名規約・先取権の原理が適用されます)。

注1: ミナミクエは今回公表した論文で新たに提唱された和名ですが、本稿ではそれ

より過去の事案についてもこの和名を用いています。香港などでは Mud grouper と呼ばれた事例も見られます。

注2：担名タイプとスケッチから確認できたクエの特徴は、①は中国・厦門大学のチームによる研究で指摘され、本研究でも再確認されました。②と③は本研究の新知見です。

今後の予定・期待

この2種の学名が確定したことは、科学の知見に基づく資源管理・養殖技術の開発などに貢献します。本研究の成果を広めることで関係者の注意を促し、異なる種の魚が混用される問題を未然に防ぐことに貢献します。

本研究のように種を見分けて他種との違いを明らかにし、学名を決定する学問が分類学です。分類学では、材料となる標本を体系的に収集した研究用の標本コレクションが不可欠であり、本研究でも、水産研究・教育機構、国立科学博物館、三重大学、鹿児島大学のコレクション所蔵標本に加え、18-19世紀に採集された海外の博物館所蔵標本をも利用しています。水産研究もその基礎となる分類学に、更にその研究インフラである標本コレクションに下支えされているのです。

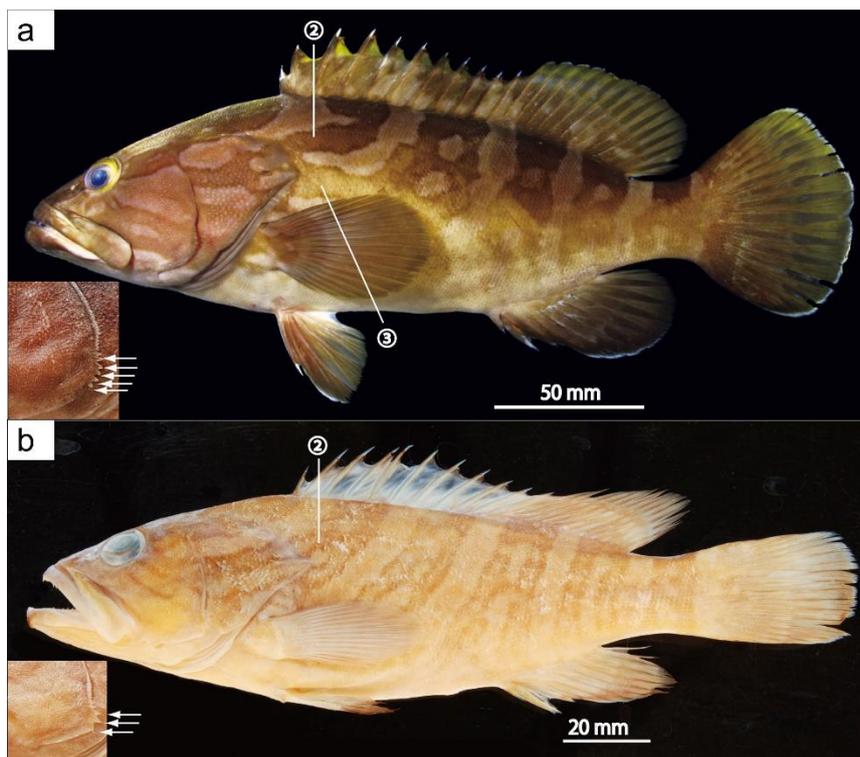


図 1. a クエ *Epinephelus bruneus* (標本・画像：鹿児島大学総合研究博物館所蔵)；b ミナミクエ *Epinephelus randalli* (標本：国立科学博物館所蔵)。
② 2本目の縞；③ 3本目の縞の枝；左下囲みは前鰓蓋骨とそのトゲ（矢印）。掲載論文の図を改変。



図 2. *Epinephelus bruneus* Bloch, 1793の担名タイプ(a)およびそのスケッチ(b). ②2本目の縞; ③3本目の縞の枝; aの左下隅みは前鰓蓋骨とそのトゲ(矢印). 掲載論文の図を改変. 画像提供: ベルリン自然史博物館.